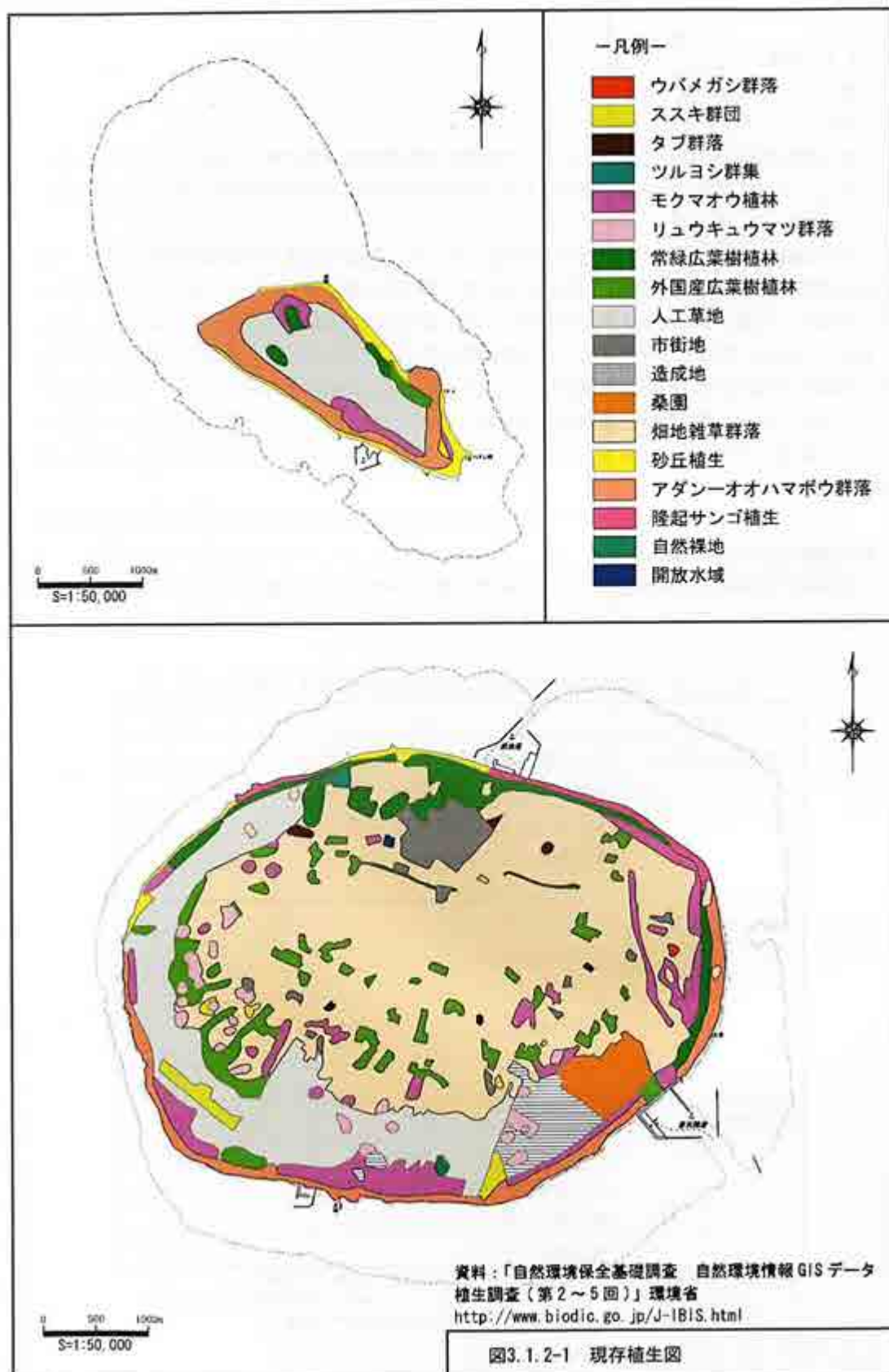
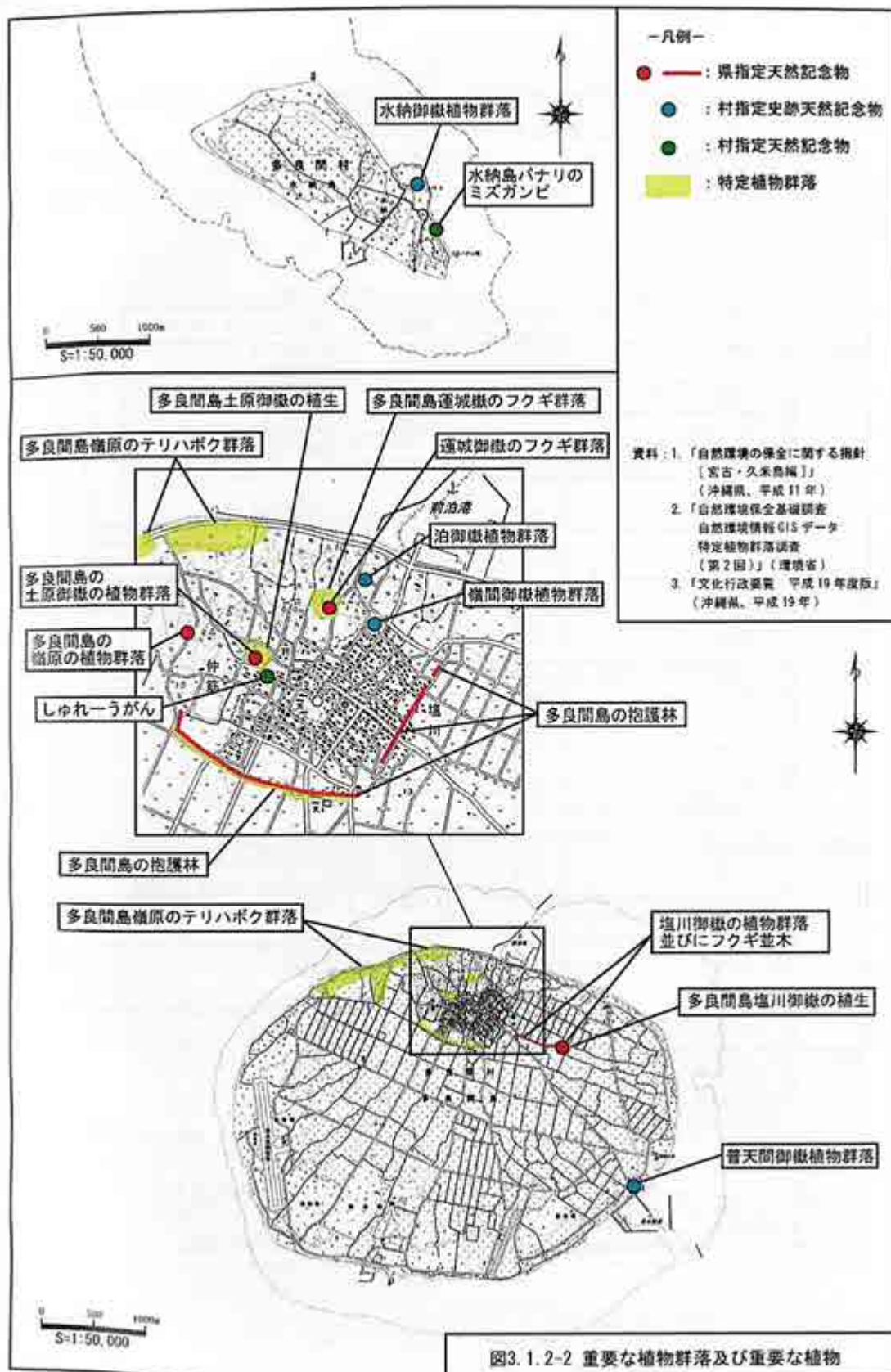






《陸域動物》

表3.1.2-2(1) 多良間村の主な動物種一覧

分類	和名	天然 記念物	種の 保存法	環境省RL	沖縄県RDB	水産庁DB	WWF-J	資料
鳥類	カイツブリ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	5
	カツオドリ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	5
	リュウキュウヨシゴイ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	3,5
	チュウサギ	-	-	準絶滅危惧	準絶滅危惧	希少種	-	5
	ミサゴ	-	-	準絶滅危惧	絶滅危惧II類	-	-	5
	リュウキュウツミ	-	-	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	-	-	5
	ミフウズラ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	3,5
	リュウキュウヒクイナ *1	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	3,5
	バン	-	-	-	-	-	-	3
	シロチドリ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	5
	ツバメチドリ	-	-	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	-	-	3
	ベニアジサシ	-	-	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	-	-	5
	エリグロアジサシ	-	-	準絶滅危惧	準絶滅危惧	減少傾向	-	5
	セグロアジサシ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	5
	コアジサシ	-	国際希少	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	減少傾向	-	5
	クロアジサシ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	5
	キジバト	-	-	-	-	-	-	3
	ズアカアオバト	-	-	-	-	-	-	3
	リュウキュウコノハズク	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	5
	リュウキュウアカショウビン *	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	3,5
	ヤツガシラ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	5
	ツバメ	-	-	-	-	-	-	3
	リュウキュウツバメ	-	-	-	-	-	-	3
	ヒヨドリ	-	-	-	-	-	-	3
	イソヒヨドリ	-	-	-	-	-	-	3
	ウグイス	-	-	-	-	-	-	3
	セッカ	-	-	-	-	-	-	3
	リュウキュウサンコウチョウ *	-	-	-	情報不足	-	-	3,5
	メジロ	-	-	-	-	-	-	3
	スズメ	-	-	-	-	-	-	3
爬虫類	アカウミガメ	-	-	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	希少種	希少種	3
	アオウミガメ	-	-	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	希少種	希少種	3
	タイマイ	-	-	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	希少種	希少種	3
	タシロヤモリ	-	-	情報不足	情報不足	-	未決定種	2
	ボオグロヤモリ	-	-	-	-	-	-	2,3
	サキシマキノボリトカゲ *2,3	-	-	準絶滅危惧	準絶滅危惧	-	-	2
	ミヤコトカゲ	-	-	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	-	-	5
	キンノウエトカゲ	国指定	-	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	-	-	2,3,4,5
	サキシマスベトカゲ	-	-	-	-	-	-	3
	サキシマアオヘビ	-	-	準絶滅危惧	準絶滅危惧	-	-	4
両生類	サキシマヌマガエル *2	-	-	-	-	-	-	2,3
	ヒメアマガエル	-	-	-	-	-	-	2

資料:1. 「第2回自然環境保全基礎調査」(昭和55年)環境庁

2. 「第3回自然環境保全基礎調査」(平成元年)環境庁

3. 「種々の多様性調査(第6回自然環境保全基礎調査)」(平成14年)環境省

4. 「沖縄県環境利用ガイド」(平成4年)沖縄県

5. 「自然環境の保全に関する指針[宮古・久米島編]」(平成11年)沖縄県

注: *1 資料3ではそれぞれ「ヒクイナ」「アカショウビン」「サンコウチョウ」となっているが、資料3の鳥類調査は繁殖分布調査であり、現在南西諸島で繁殖するものはそれぞれ亜種「リュウキュウヒクイナ」「リュウキュウアカショウビン」「リュウキュウサンコウチョウ」とであるとされているため、ここではこれを採用した。

*2 資料2,3ではそれぞれ「キノボリトカゲ」「ヌマガエル」となっているが、現在先島諸島に生息するものはそれぞれ亜種「サキシマキノボリトカゲ」「サキシマヌマガエル」とであるとされているため、ここではこれを採用した。

*3 サキシマキノボリトカゲは多良間島からの報告がないことから、記載ミスである可能性がある。

表3.1.2-2(2) 多良間村の主な動物種一覧

分類	和名	天然 記念物	種の 保存法	環境省RL	沖縄県RDB	水産庁DB	WWF-J	資料
昆虫類	リュウキュウベニイトトンボ	-	-	-	-	-	-	3
	アオモンイトトンボ	-	-	-	-	-	-	3
	ギンヤンマ	-	-	-	-	-	-	3
	タイリクショウジョウトンボ	-	-	-	-	-	-	3
	ハラボソトンボ	-	-	-	-	-	-	3
	ウスバキトンボ	-	-	-	-	-	-	3
	イワサキクサゼミ	-	-	-	-	-	-	2
	ミヤコニイニイ	-	-	-	-	-	-	1
	シロヘリハンミョウ	-	-	-	-	-	-	3
	アオスジアゲハ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ベニモンアゲハ	-	-	-	-	-	-	2,3
	シロオビアゲハ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ナミアゲハ	-	-	-	-	-	-	2,3
	カワカミシロチョウ	-	-	-	-	-	-	3
	ナミエシロチョウ	-	-	-	-	-	-	2,3
	モンシロチョウ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ウラナミシロチョウ	-	-	-	-	-	-	2,3
	キチョウ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ツマベニチョウ	-	-	-	-	-	-	3
	ウラナミシジミ	-	-	-	-	-	-	2,3
	タイワンクロボシシジミ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ヤマトシジミ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ハマヤマトシジミ	-	-	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	-	-	2,3
	シルビアシジミ	-	-	-	-	-	-	2,3
	カバマダラ	-	-	-	-	-	-	2,3
	シロオビマダラ	-	-	-	-	-	-	2,3
	オオゴマダラ	-	-	-	-	-	-	2,3
	リュウキュウアサギマダラ	-	-	-	-	-	-	2,3
	アサギマダラ	-	-	-	-	-	-	2,3
	スジクロカバマダラ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ヒメアカタテハ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ヤエヤマムラサキ	-	-	-	-	-	-	2,3
	リュウキュウムラサキ	-	-	-	-	-	-	2,3
	メスアカムラサキ	-	-	-	-	-	-	2,3
	タテハモドキ	-	-	-	-	-	-	2,3
	アオタテハモドキ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ルリタテハ	-	-	-	-	-	-	2,3
	アカタテハ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ウスイロコノマチョウ	-	-	-	-	-	-	2,3
	オキナワクロホウジャク	-	-	-	-	-	-	3
	イチモンジホウジャク	-	-	-	-	-	-	3
	ホシホウジャク	-	-	-	-	-	-	3
	クロオビホウジャク	-	-	-	-	-	-	3
	ホウジャク	-	-	-	-	-	-	3
	ヒメホウジャク	-	-	-	-	-	-	3
陸生貝類	ヤエヤマヤマキサコ	-	-	-	-	-	-	3
	ウスイロオカチダサガイ	-	-	-	-	-	-	3
	ヌノメカワニナ	-	-	-	-	-	-	3
	ナガケシガイ	-	-	準絶滅危惧	準絶滅危惧	-	-	3
	ヒメモノアラガイ	-	-	-	-	-	-	3
	アシヒダナメクジ	-	-	-	-	-	-	3
	オキナワヒメオカモノアラガイ	-	-	-	-	-	-	3
	ノミガイ	-	-	絶滅危惧Ⅱ類	-	-	-	3
	スナガイ	-	-	準絶滅危惧	-	-	-	3
	シモチキバサナギガイ	-	-	-	-	-	-	3
	タラマノミギセル	-	-	-	-	-	-	3
	イトカケマイマイ	-	-	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	-	-	3
	マルオカチョウジガイ	-	-	-	-	-	-	3
	オカチョウジガイ	-	-	-	-	-	-	3
	オオオカチョウジガイ	-	-	-	-	-	-	3
	シリブトオカチョウジガイ	-	-	-	-	-	-	3
	サツマオカチョウジガイ	-	-	-	-	-	-	3
	ナハキビ	-	-	-	-	-	-	3
	コスジキビ	-	-	-	-	-	-	3
	ニイジマシタラガイ	-	-	-	-	-	-	3
	ヒラシタラガイ	-	-	-	-	-	-	3
	オキナワウスカリマイマイ	-	-	-	-	-	-	3
	タママイマイ	-	-	-	-	-	-	3
	アカマイマイ	-	-	-	-	-	-	3
	オオマオオベソマイマイ *1	-	-	準絶滅危惧	-	-	-	3
	タラマケマイマイ	-	-	-	-	-	-	3

資料:1. 「第2回自然環境保全基礎調査」(昭和55年)環境庁

2. 「第3回自然環境保全基礎調査」(平成元年)環境庁

3. 「種の多様性調査(第6回自然環境保全基礎調査)」(平成14年)環境省

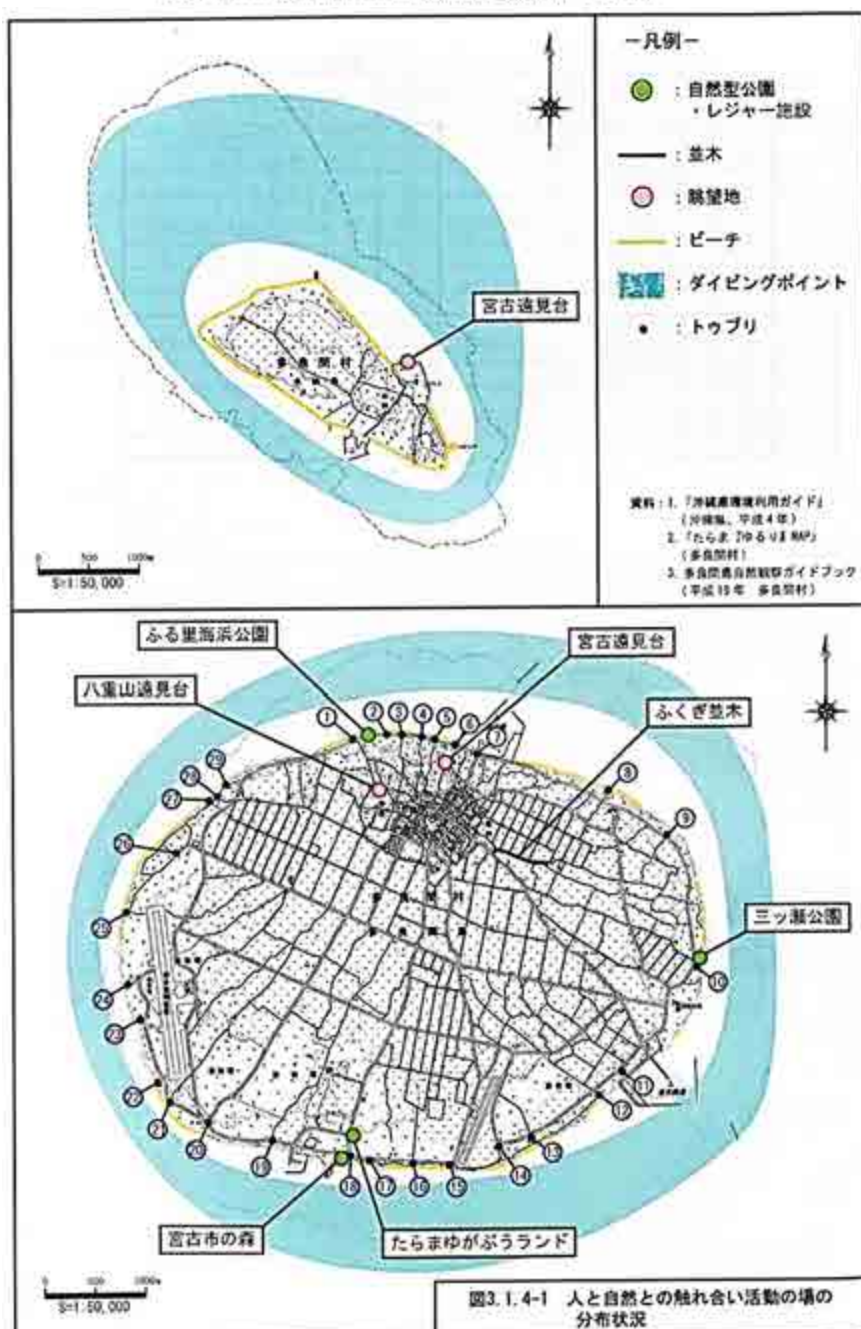
注:*1 「環境省レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)陸・淡水産貝類」(環境省、2005)では、「オオマオオベソマイマイ」と記載されている。

《トゥブリ》

表3.1.4-3 トラブリの名称

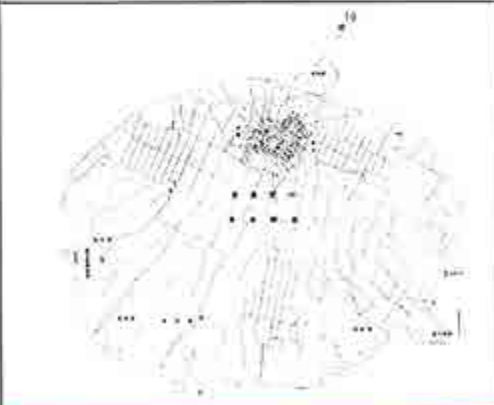
番号	名称	番号	名称
1	ウブドゥマリ [®] トゥブリ	16	ジャカマディトゥブリ
2	ナガシャギトゥブリ	17	アグリ [®] タカアナトゥブリ
3	マッシュムートゥブリ	18	タカナナトゥブリ
4	クナダシャギトゥブリ	19	ナカシャラトゥブリ
5	クディトゥブリ	20	マグリ [®] トゥブリ
6	マイドゥマリトゥブリ	21	アグリ [®] アカダントゥブリ
7	ヌヌドゥトゥブリ	22	イリ [®] アカダントゥブリ
8	ウカバトゥブリ	23	ウブドゥートゥブリ
9	バナリトゥブリ	24	ススキバマトゥブリ
10	ミッジトゥブリ	25	タカシバマトゥブリ
11	フタジトゥブリ	26	バイスツジトゥブリ
12	クニガートゥブリ	27	アラダトゥブリ
13	ウドゥルタマトゥブリ	28	タカタトゥブリ
14	ウェーダーマリー [®] トゥブリ	29	オールトゥブリ
15	ケーシャリ [®] トゥブリ		

資料：「Tarawa Island Niuea Island GUIDEMAP 多良間村」 多良間村



《海域調査》 多良間島、水納島の周辺は豊かなサンゴ礁が発達、2 地点を示す

島名	多良間島				
日時	2008/7/7				
地点番号	T9				
地点名(ダイビングポイント名など)	前泊港沖防波堤				
緯度経度	N24° 40' 58.4" 124° 42' 40.3"				






地点の状況		攪乱要因		よく見られる生物
水深(m)	38	オニヒトデ個体数	—	・個体数の多い魚類 デバスズメダイ、モンツキアカヒメジ、
底質の概観	岩盤・コンクリート	オニヒトデ優占サイズ	—	・大型の個体が見られた魚類
地形	磯斜面	サンゴ類食害員の発生状況	—	スジクロハギ、クロモンガラ、キツネフエフキ

サンゴ			藻場	
サンゴ全体被度	25%以上50%未満	よく見られるサンゴ類	藻場被度	無
生育型類型	多様混成型	卓状ミドリイシ属、枝状ミドリイシ属	藻場構成種	
サンゴ白化の段階	1%未満 白化なし			

島名	水納島
日時	2008/7/9
地点番号	M9
地点名(ダイビングポイント名など)	—
緯度経度	N24° 44' 13.8" E124° 42' 31.0"



地点の状況		攪乱要因		よく見られる生物	
水深(m)	5.1	オニヒトデ個体数	1	・個体数の多い魚類 オキナワスズメダイ ・大型の基体が見られた魚類 ヒトツラハリセンボン、アオノメハタ、ナンヨウブダイ	
底質の概観	岩盤	オニヒトデ優占サイズ	20cm以下		
地形	礁斜面	サンゴ類食巻貝の発生状況	—		
サンゴ				藻場	
サンゴ全体被度	25%以上50%未満	よく見られるサンゴ類		藻場被度	無
生育型類型	枝状・卓状ミドリイシ優占型	卓状ミドリイシ属、枝状ミドリイシ属、カメノコキクメイシ属、コカメノコキクメイシ属		藻場構成種	
サンゴ白化の段階	1%未満 白化なし			—	

1 1. 写真で見る生物多様性（浜抱護の林帯に生息する鳥類やヤシガニ）

■タカアナトウブリの浜抱護の林帯に生息する鳥類やヤシガニ ⑫4(2)4)C-D P69 補足



リュウキュウアカシヨウビン



子育てするサンコウチヨウ



リュウキュウキンバト



ヤシガニ

12. 写真で見る腰当森（クサティムイ）・浜抱護

④4(5)1) P108 補足

写真で見る腰当森（クサティムイ）・浜抱護



▲朝の光が差し「運城御嶽」。御嶽より鳥居を望む
(県指定天然記念物 運城御嶽のフクギ群落)



▲左の道は墓地群へ、右の道は泊御嶽、マイドゥマリトウブリへ



▲緑に包まれた「泊御嶽」。旧8月8日から始まる八月踊の正日、八月御願が早朝から執り行われる。三日間演じられる八月踊りは「奉納余興」である



■フクギ巨木が散見される墓地群の林帯



■腰当森の林帯



■腰当森と浜抱護の境界付近にスマフシヤラを吊るす



■トウブリ

■トウブリから浜抱護を望む



■浜抱護からトウブリを望む



■浜抱護

⑤4(1) P91 補足

スマフシャラ（秋緋い）のモデル図

■スマフシャラ

■風雨に堪えた昨年のスマフシャラを取替える

▲合流点での設置作業

■秋緋いは立春の日に字単位で行う。外部から疫病や魔を祓い退ける。合流点は早く到着した字が設置して（左）

▲夕方から疫病や魔を祓い、豊年を祈願しながら宴会が行われる

▲左端は老人座、中老座が縫う

▲三枚肉

▲だし汁昆布煮付

◆料理は実行員の担当

■デビチ汁

■中老汁

■ソウキ汁

■一神社五郎殿で秋緋い（多良間神社）

■中老・老人座

14. 写真で見る祭祀「スツウプナカのトゥブリでの安全・豊漁祈願」

②4(2)5)B P74



①集落からトゥブリに至る浜抱護の緑のトンネル
写真4-(2)-5)-6 海へ至道「トゥブリ」3景



②トゥブリから海を望む。ビーチやイヌーが広がる



③漁に行く前にはトゥブリの海の神に安全豊漁を祈願した



タカアナトゥブリ

写真4-(2)-5)-5 浜抱護にみるアダンやモクマオなどの海岸植生。砂地はトゥブリ



▲スツウプナカでは、トゥブリに安全・豊漁を祈願してから漁に向かう



紅蟹



白かまぼこ



白かまぼこ入り色汁

写真4-(2)-5)-6 神に捧げる海の幸の供物



■浜抱護を抜けると青い空「豊漁の海」が広がる

15. 水納島における抱護の造成史

水納島は多良間島の北西約 10km に位置し、その面積は多良間島の 9 分の 1 程 (2.15 km²) の小さな平坦な孤島である。そのため多良間島より冬の季節風や台風の影響をもろに受けやすく、これらの自然災害から島の生活環境を守るため、昔から島を囲繞する抱護が造成されてきた。今でもその痕跡が海岸沿いのアダン林、テリハボクの防風防潮林(写真 15-3)、水納御嶽や集落跡地のフクギ林として残されている。

宮古島の頭職を代々勤めてきた白川氏の家譜資料によれば、琉球王国の「公事」として水納島に「針竿」(地積測量) 調査などが入ったのは、1744 年からである。それ以前の 1741 (乾隆 6) 年には、多良間島の「山敷針竿」(山林測量) などが実施されており、多良間島調査の 3 年後から水納島の土地測量と同時に、島内における抱護の造成の指針が示され実施されていった、と考えられる (多良間村史第 1・2 巻、2000・1986)。

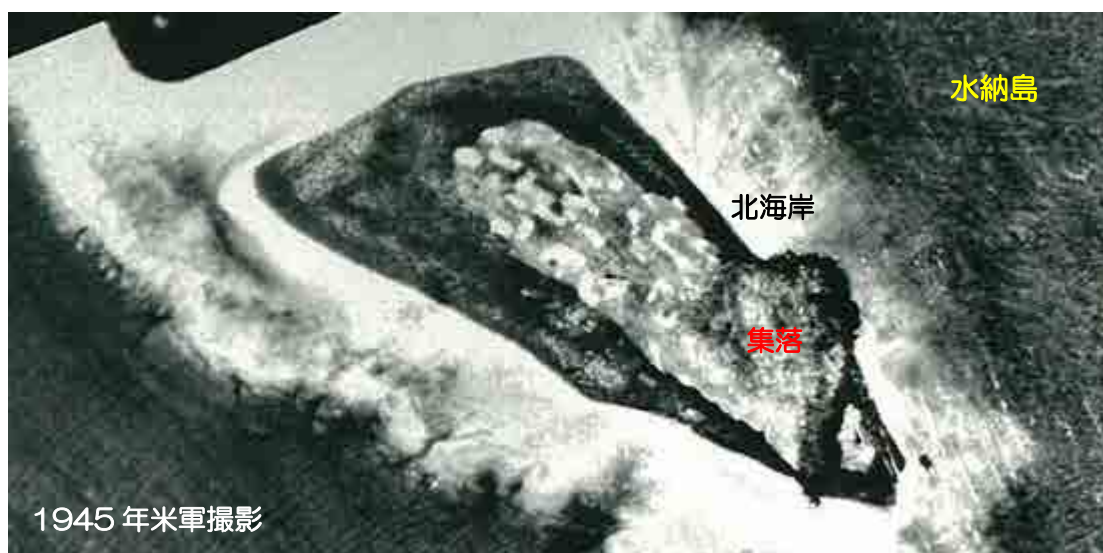


写真 15-1 琉球王府は 1845 年に島を囲繞する抱護を造成。海浜帯にヤラブ (テリハボク) の造林



写真 15-2 現在の水納島。島の東部には集落と御嶽を囲むように抱護が囲繞する

この水納島における抱護の造成から 27 年後に、石垣島を震源とする「明和の大津波」が発生し、その影響で水納島の自然・生活環境が一変する。

この大津波によって、「多良間島は、人口 3,324 名の内 362 名波に引き流されて溺死し」、水納島にいたっては、「人一人も残らず、家財諸草木までもすべて引き流され村形もなく所々大石小石白砂杯寄せ揚げ石原になり、また井戸も崩れ跡形も見えず」（多良間村史第 1 巻、2000）、という惨状になっていた。

王府はこの水納島が八重山と宮古島を往来する船舶の一時停泊する島としての重要性に鑑み、早速、用水確保のために多良間島から技術者を派遣して、この島における井戸の掘削など、村の再建に乗り出していった。1773 年には、在番（役所）役人と数世帯が水納島に渡り、村の組立てと家造りに取り組んでいる。1774～1778 年には耕地の整備などが行われ、徐々に島民の生活基盤が整えられていった（多良間村史第 1 巻、2000）。



写真 15-3 緑のトンネル。島南側の水納港から集落に向かう途中のテリハボクの抱護

水納島における村の再建が完了したあと、王府は島を囲繞する抱護の造成に取り組み、1845 年には、水納島の海浜帯にヤラブ（テリハボク）の造林を行っている（多良間村史第 1 巻、2000）。ちなみに、水納御嶽の参道にはフクギ巨木が林立しているが、その内の最大木（DBH の直径 54.14cm）から推定すると、172 年の樹齢になる。この数値を調



写真 15-4 現在の水納島の集落。奥に北側の抱護

査年(2020)から遡ると、1848 年ごろに植えられたことが分かる（福木巨木の巡礼誌、2021）。先のテリハボクとほぼ同時期に植栽されたことになる(写真 15-5～8)。おそらくこのことは、1771 年の「明和の大津波」のあと村建てが一段落し、その後、70 年余をかけて抱護の植栽・再植林に取り組んできた歴史的事実を示すものであろう。明治大正期にも、島の北側の抱護の空隙を埋めるために、テリハボクの大造林が行われている事実が確認できる(写真 15-1)

〔多良間村史第3巻、2005〕。

1935（昭和10）年の国勢調査によれば、水納島には265人が住み主に漁業に従事していたようだが、1961（昭和36）年の台風被害と人口飽和状態をきっかけに、同年（1961）には琉球政府の計画移民政策によって、18戸（当時28戸）が宮古島の大野越に移住している。2016年には水納島の人口は1世帯5人に急減、2021年には2世帯3人になり、現在、180年前から造成されてきた抱護内で数百頭の牛の飼育を主な生業とする生活が続いている（（大山、1983、Wikipedia、YAHOOJAPAN 検索水納島））。



写真 15-5 フクギの参道と途中の鳥居



写真 15-6 ミンパコを祀った水納御嶽



写真 15-7 参道のフクギ。樹齢の推定式から王府が1845年にヤラブ造林の植栽年と一致する



写真 15-8 石灰岩の隙間を縫って逞しく生きる御嶽北のフクギ群。その生命力には驚く

引用文献

多良間村史編集委員会編. 2000. 多良間村史第1巻通史編島のあゆみ. 多良間村. 116-117頁.

多良間村史編集委員会編. 1986. 多良間村史第2巻資料編I（王国時代の記録）. 多良間村. 44・47頁.

多良間村史編集委員会編. 多良間村史第1巻. 多良間村. 125-126頁. 129頁.

同上. 多良間村史第1巻. 117頁.

仲間勇栄・来間玄次. 2021. 福木巨木の巡礼誌. 編集工房東洋企画. 210頁.

多良間村史編集委員会編. 2005. 多良間村史第3巻資料編2 近現代の社会と生活. 多良間村. 160・162頁.

大山春翠. 水納島. 1983. 沖縄大百科事典下巻. 沖縄タイムス社. 622頁.

フリー百科事典『ウィキペディア Wikipedia』の多良間村水納島の項目より.

<https://nihonshima.net/sima4/okinawa/minnatarama.html>